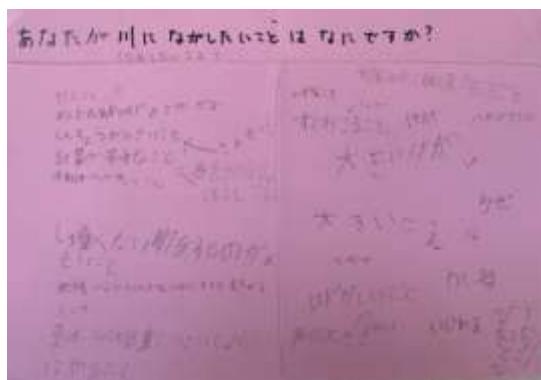


令和6年度 児童朝会（講話97）

令和7年3月10日【無人島】

おはようございます。明日3月11日は、今から14年前に東日本大震災が起きた日です。ということで、今日は災害や命のことについて、学び合っていこうと思います。

まず先週は「自分がなおしたいこと、川に流したいことってありますか。」がお題でした。すると、すぐ怒るところ、計算が苦手なこと、部屋がすぐに汚れることなど、たくさんのお友だちが書いてくれました。ありがとうございました。



さて、皆さんは、毎月お小遣いはどれぐらいほしいですか？また世の中で一番大切なといえ…お金でしょうか？ということをまずは考えていきたいと思います。

これは何ですか？島ですね。日本にはこのような島が417～14125こあります。なぜ数がこれだけ上下するのかは、後でお話しますね。では世界全体ではどれだけ島があるのでしょうか？だいたい50万から100万もあると言われており、日本もそんな島の1つなので島国と言われています。

日本のずっと南にナウルという小さな島があります。これが実際のナウルの写真ですが、自転車なら1時間もあれば1周回れる小さな島です。この島の周りにはほとんど島がありません、すると多くの鳥たちが翼を休めにやってきます。だから、ナウルの島には大量の鳥の糞が雪のように積もり化石になっていきました。これがその様子の写真ですが、高さ10メートルは鳥の糞の化石があります。

鳥の糞と聞くと「わ～最悪」となるかもしれません。しかしナウルは地上の楽園と呼ばれるほど、世界中の人からの大人気の島でした。なぜでしょう？少し周りの人と聞き合ってみてください。

実は鳥の糞の化石は農作物を育てるときのとてもいい肥料になるのです。だから鳥の糞の化石はスプーン11杯で、1円で取引されていました。ナウルの人たちは、鳥の糞の化石を堀り、それを輸出して売りさばき、大儲けしたのです。こうしてナウル共和国は世界でも珍しい「ベーシックインカム」ができる国になったのです。

ベーシックインカムというのは、おおもうけしたお金で毎月国民一人一人に10～20万円ぐらいのお小遣いを渡す仕組みです。働かなくてもお金がもらえるのです。税金、医療費、教育費、電気、ガス、水道全て0円。結婚すると家ももらいました。こんな国でがんばって働くうと思いませんか？やがてナウル人は、会社も工場も

お店も、学校の先生もやらなくなり、お掃除やごはんづくり、子どものお世話もしなくなりました。じゃあ誰が働くのでしょうか？なんと、気が付くとナウルの国内では、ナウル以外の外国人ばかりが働く状態になりました。

さらに、働くかなくてもお金がもらえ、生きていけるので、子どもたちも学校に行かなくなりました。こうして、ベーシックインカムは30年ぐらい続きました。ナウルの国はどうなったと思いますか？少し周りの人と聞き合ってみてください。

みんな学校に行かないで、文字も読めないし、計算もできなくなりました。さらに働くかず、運動もしないで毎日ごちそうばかり食べていたので、多くの国民が病気になってしましました。

そして今から30年前、ついにナウルは全ての鳥の糞の化石を掘りつくしてしまいました。もちろん、お金をかせぐ方法がなくなったので、ナウルの人は、一気に貧しくなりました。今では、このことを反省してみんなちゃんと学校にいって、まじめに働いているそうです。

では、改めてお聞きします。皆さんは毎月お小遣いはどれくらいほしいですか？また世の中で一番大切なもののといえば…お金でしょうか？

日本の島の数は、人が住んでいる島が417、人が住んでいない無人島が13708こあります。さて、今あな

たが乗っている船が急に沈みだしました。すぐ近くには無人島が見えました。1つだけモノを持って泳いでいけそうです。皆さんなら、無人島に何を1つだけ持っていきますか？これが今週のお題です。アイデアが浮かんだ人は、校長室前のボードに書きにきてください。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

